

供用開始

9月26日(土)
午後2時～

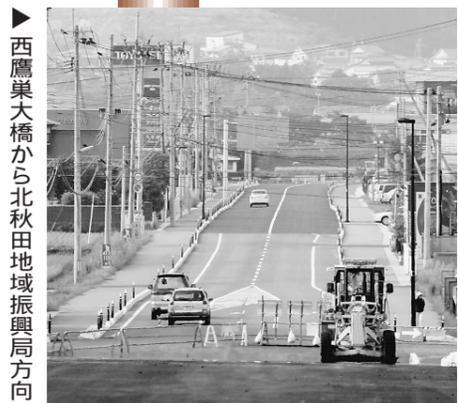
バイパスの供用を開始します

主要地方道鷹巣川井堂川線 都市計画道路太田川口線 西鷹巣大橋

主要地方道鷹巣川井堂川線及び都市計画道路太田川口線のバイパス工事がまもなく完成し、9月26日(土)午後2時より一般車両の通行ができます。バイパスの供用開始で、大館能代空港や国道105号線へアクセスする新たなルートが整備されたことになり、渋滞の緩和や所要時間の短縮が期待されます。

【開通区間】 鷹巣字下家下、脇神字平崎川戸沼間 約2km

◀米代川に架かる『西鷹巣大橋』



▶西鷹巣大橋から北秋田地域振興局方向

バイパス開通式

期日 9月26日(土)

場所 西鷹巣大橋
(空港側アプローチ)

- 10時00分 安全祈願祭
- 10時30分 開通式典
- 11時20分 テープカット/くす玉開披
- 11時20分 橋梁渡り初め
- 11時45分 親子三代渡り初め
- 11時45分 開通パレード

お問い合わせ

北秋田地域振興局建設部企画道路課
都市計画課都市計画班
☎ 72,5239

行財政改革が本格スタート

市民と行政との共働 職員の意識改革 行政コストの徹底削減

北秋田市ではこのほど、財政の効率化と行政サービスの質を向上させるための5カ年計画「行財政改革大綱」を策定し、大綱に基づいた取り組みを8月からスタートさせました。今後は、市民の協力のもと、職員一人ひとりがコスト意識を持ちながら行財政改革に取り組んで行くこととなります。

市民目線で計画を策定

北秋田市では昨年4月、行財政改革室を設置、大綱策定に着手するとともに、市民委員10人で構成する行財政改革推進委員会(加藤茂行委員長)を立ち上げ、8回にわたる協議を経

て大綱案を策定しました。

市の各種計画は、これまでで作った原案を委員会が審議し、成案とするケースがほとんどでしたが、この素案は、市民の目線を計画に反映させるため委員会がゼロからまとめた点が大きな特徴です。

この素案(委員会案)を、行財政改革推進本部(本部長=津谷市長)が検討し、最終的に成案としました。取り組み期間は平成25年度までの5年間としています。大きな目標としては、次の3つの点に取り組んでいきます。**市民と行政の共働によるまちづくり**

まちづくりの主体は行政ではなく市民であることに意識を持ってもらい、お互いが補完し合いながら、より

よいまちづくりを進めていきます。

職員の行財政改革への意識改革

職員一人ひとりがコスト意識を持ちながら、市民に対する全体の奉仕者であることを忘れずに満足できるサービスを提供していきます。

行政コストの徹底的な削減と収入の確保

行政運営に係るムダな経費の徹底的な削減に取り組むとともに効果的な行政サービスを提供するために、積極的に民間活力の導入も図っていきます。同時に収入の確保策についても取り組んでいきます。

パブリックコメント(市民からの意見・提案)

なお、成案の策定にあたり、広報紙、ホームページで素案に対する意見を募集したところ、素案については1件その他行政への一般的な意見(危機管理、地域振興)が2件ありました。このうち、素案に対する意見と回答は次の通りです。

意見
事業実施にあたり慣例や前例にとらわれず、すべての事業について毎回ゼロから目的と必要性を精査し、真に必要な事業を実施することによ

て、支出の削減や市民サービスの向上につながると思う。

職員数については、大幅な削減が必要と思われるが、一人あたりの給与を増やし優秀な人材を確保することによって、効率性の良い行政運営ができるのではないかと。また一部成功報酬型の給与体系も考えたらどうだろうか。

臨時職員がなぜ必要なのか理解できない。業務で必要であれば正職員にするべきで、外部委託できるものであれば委託し臨時職員を無くすべきではないか。(40代、男性)

回答

ご指摘のように、行政施策や事務事業については、慣例や前例にとらわれず常に点検、評価を行いながら実施することが行革を進めるための必須条件だと考えています。民間の効率的な経営手法を取り入れながら事務改善、事業の見直しを図ります。

また、職員、非常勤職員についても、実際の運用基準となる「職員適正化計画」と整合性を図り定員管理に努めます。業務の見直しに際しては、外部委託などの方法も検討し、効率的な行政運営に努めます。

行政改革が本格スタート



第3回行財政改革推進本部(8月10日)